

## 第11回 早朝散歩で人間観察



COVID-19パンデミックでジム通いを辞め、  
運動不足を補うために夫と一緒に出勤前の早朝散歩を3年近く前から始めました。

スマホ片手に通ったことのない道を歩いて、  
暗渠になっている川がなんと沢山あることや、  
縦列にならないと通れない、けれども便利な裏道がいたるところにあることなどを発見しました。  
散歩では、それぞれの大学での出来事や研究、あるいは読んだ本などが話題になります。

今日は歩きながらの人間観察で気づいた「ヘエーッ！」なお話。

\*\*\*\*\*

第1弾。私と夫では、記憶の仕方が違うことが分かりました。

私は画像で記憶します。

例えば、帰りの電車の中でつり革につかまりながら夕飯用の買い物を計画する場合は、  
まずスーパーの平面図を頭に思い浮かべ、動線に対応して買うものを画像で描き加えます。

例えば、最初の野菜コーナーは🥕🍅🍆🥒、  
その隣の卵コーナーは🥚🥚で、お酒のコーナーは🍷……といった調子です。

最後に品物の総数を確認してリストが完成です。

スーパーに着くと、記憶した画面を頭に浮かべ、動線に沿って買い物開始となります。  
話を記憶する場合も、どうも頭の中で文章に置き換えて、その文字を画像として記憶するようです。

記憶容量の多くを画像に割くせいでしょうか、単なる言い訳でしょうか、

私は抽象化や概念化が苦手です。

科学的な内容の抽象化や概念化は「それなりに」しますが、  
科学的な事象と非科学的なものが混在する時事問題や社会問題を前にすると、  
途端にフリーズしてしまいます。

片や夫は、抽象化・概念化が得意です。

記憶は、画像ではなく「概念」でするそうです。

思い出すときも、場面を思い出すことはまず無く、概念を思い出すとのことでした。

込み入った社会現象も、論理・科学で解ける領域と解けない領域に分けて、前者に照準を合わせて解決方法を見つけ出すようです。特技ですね。私は、彼のこの特技を盗めないかと、今日も散歩を続けるのでした。

\*\*\*\*\*

第2弾。無意識下での「認知状態」も異なります。

私は、ぼーっと歩いていても、視界に入った事物を認知しています。実際、不意打ちで、「さあ、目をつぶって。さっき見たものは何でしょう？」と問われても、どんな状況だったかをそれなりに答えることができます。聴覚から入った情報も同じです。まあ言ってみれば、デフォルトでの私の認知状態は「ON」です。

これと対称的なのが夫です。

公園の散歩中に、「さっき通り過ぎた公園の遊具が、パンダからキリンに変わったね」と言っても、「公園なんかあったっけ？」です。

通勤でぼーっと歩いている時など、駐車中の車にぶつかることもあるそうです。

聴覚からの情報も似たり寄ったりです。

彼のデフォルトでの認知状態は「OFF」のようです。

この傾向は前から気付いていたのですが、この散歩で確信に至りました。

\*\*\*\*\*

第3弾。彼のこの「認知OFF」が特技に繋がることが分かりました。

子供たちや、最近では孫たちがギャーギャーと喚き散らしていようが、大音響でオペラを鳴らしていようが、彼は悠然と論文を書き続けます。周りの状況を見ない、聞かないという「認知OFF」状態に移行して、論文書きに集中できるらしいのです。

一方の私はこんな状況になっても、認知はONのままです。

周りの状況がまるごと見え、すべてが聞こえ、まわりの変化にいちいち反応してしまいます。その結果、論文書きに集中できず、早々に退散してしまうのでした。無理っす！と。

もしかしたら、彼には「認知状態」を「ON/OFF」するスイッチ（そんなのがあるのかは知りませんが）があり、それを操作できるのかもしれませんが。

デフォルトではOFF、見たり聞いたりしたいと意識したときにはONにする。

さらに、集中したいときには、不必要な情報の流入をOFFにできる、です。

私には、OFFにするスイッチがないのか、あるいは、あっても操作ができないのかもしれませんが。

この「ON/OFFスイッチ」の有無が、うるさい環境を物ともしない集中力の決め手なのかもしれません。

\*\*\*\*\*

遠い昔に起きた大夫婦喧嘩のうちのいくつかは、

実は、これらの特性の違いが原因で起こっていたのかもしれませんが。

見た、見てない。聞いた、聞いてない……..という喧嘩。

もっとも、今や加齢により私の記憶力は超低空飛行。とても平和になりました。